

梨と子供の時によく言つた僻地、勾配の急な草屋のなめらかしい煙の登る様、大古時代から子孫が連続と傳はつたのだらう。寫生しはじめた、灰色の鎮守の腐つた建物を中心にして、面白くないが遠景に農家と松の森繪具の不善なので、けばくして筆が延びない、午前十一時、草の靡いた形が出ない、木を切る音が聞える、仙化せられた人となつた、思はず一息に書き終つた。

## 日記の一節

鹿兒島　み　い　坊

八月二十日午後より、永濱重範君と中名方面へ寫生に行た、僕はとある丘上に畫架を立て、漁村と林を前景にして櫻岳を寫して居たら、長い間後から見居た一人の農夫が「ソゲンシテサゲスム御取イヤットナ」と聞いた、何の事か僕にやさつぱり解らない、再三再四問ひ返したがわからぬ、僕はサゲスムと云ふのが解らんだ、僕は何も思はず、只さと答へたら「えー榮華いな」と云つて去つた、サゲスムと云ふのが氣になつて居たので、歸途に近所の爺やに聞いて見たら、何だ提げ寸と云ふ事で測量の事だつて、わかつておかしかつた、成程提げ寸と理ある事だわい。

八月二十九日、今日も又昨日の處へ出かけた、途中から「寫眞取がはら」と云つて。小供かわいわい云つて二三町ついて來た、

叱つても聞きやせぬ、夕刻約束の場所に出合つた永濱君の寫生中の奇問「そんなに書いて、歸つて寫眞に取つて賣るんぢやすか」と聞く者があつたつて、田舎ぢや寫眞が畫より餘程えらいんぢやなと大笑した。途中で僕等を氣ちがいが來たと云つたと云ふ噂を聞いた、開けぬ者つて滑稽なもんぢや。

九月一日、十號ひつ提げ竹藪に行いて書きかけたら、藪蚊の多い事にや閉口、足をはらへば脊中をやる、手は届かぬ、かゆさはかゆい、仕方がない、如何程熱中し居たとて之れにやたまらぬ、早々かへつた、夜中通してむしやくしてかゆくてかゆくて寝られなんだ。

九月二日、何程蚊が多いたつて、やりかけたのをやめる氣になれやしない、いろ／＼考へた末善い事を思ひついた、僕はきらいながら煙草を持つ事を、ほんとに善い法だ、其煙でか臭で知らぬが、時々やると蚊やなんぞそこらへ來もしない、大いに助かつた。小事だが僕にや大發明でもした様に嬉しかつた、そして非常に楽しく、今日はすごした、今夜はかゆかないが、明日の天氣とスケツチが氣になつてよう寝られない、夢でスケツチに行けば、夜も晝も書き通しぢやわい、明日も又好天氣を祈る。

## 予が退會の理由

昔の某會友

本誌八月號三六頁上段に

本誌は帳簿整理上如何に御懇意の方にてても前金に非ざれば發

送不致候或る會友は前金切後發送せざりしとして自分を不信用と思ふかと怒られ即日退會致されし例あり依て爲念御注意申上置候

との記事(圈點は諸君の注意を惹く爲めに私が附したのである)が掲載されて居る是は諸君既に御覽になつた事と思ふそして諸君は此記事が事實に相違して居る點のあることを御承知ないから大下先生の處置は當然で私の方が無理だと思はれた事であらうと想像する或は私の方が無理であるのかも知らぬ併し私自身に於ては先生にも過失がないとは思はれぬ依て私は從來の關係を記述して退會の理由を告白するのである如何にも先生の云はれた通り會費の切れた事は事實であるとして夫れは五月分迄であつた抑も私が會友の末班に列したのは一昨々年の七八月で爾來今回まで會費を切らした事は只の一度もなかつた夫れが今回に限り何故拂込を遅延したかと云へば聊事情があつたからである其事情と云ふのは下の通りである本會に特別讀者の制を設けられた事は諸君も御承知であらう、で私は其當時之に加入の希望を有して居た恰もよし先生より加入の勧誘を受けたので早速加入した夫れは何でも一昨年六月であつたと記憶する爾來先々月迄は會友で併せて特別讀者であつた然るに何分私は遠隔の地に居るのであるから毎期先生よりの折角御送付下さる繪畫が圖柄若しくは出來工合の點に於て自分の希望に満たぬ事が多い夫故自分の満足するものを得る迄には少からず先生に御迷惑を煩はした斯る次第であるから先生に對し御氣の毒に堪へない夫

故六月頃であつたか何か善き方法もがたと御相談をかけた處が別に名案もない右の次第であるから本年は單に會友として會費だけの拂込に止めんか將又矢張り特別讀者を繼續せんかと躊躇して居つたのである然る處六月號の發行日も過ぎた當地の書店には既に着本して居る併し自分方へは來ない自分は斯様に思ふた自分は數年來會友と特別讀者の一人であるそして昨年分の繪畫も未だ頂戴して居らず(是は自分に希望がある故ではあるが)殊に先生と一面識か無いのでなし尙自分の書面に依ても假りに特別讀者を中止するとも會友として繼續する事は先生に於て御承知であらう旁一時間前金切になつたとて直に發送を差止められる様な事は萬々あるまいと處が二日待つても三日待つて矢張り來ない最早辛抱が出來なくなつた遂に先生に問合せた其御返事は『六月號は前金切のため發送しなかつた事と思ふ併し七月の紀念號は兎に角送本させる』と云ふ意味であつた其後私は旅行で不在勝であつた其内遂に七月號の發行日も經過した矢張り來ない其代り葉書が來た『紀念號は發行になつたが殘本僅に三十部に過ぎぬ早く指圖して呉れ』との意味であつた讀み終りて暫し私は呆然たらざるを得なかつた夫れは何故かと云ふに是迄私は大の先生崇拜者であつた併し夫れは技倆の如何よりも人格の高き御方と信じた爲めである然るに其私淑して居つた先生の此葉書の文句は曩きに兎に角送本させると云はれた言葉を反古にせられたもので私は實に意外に思ふたのである私が前に先生に過失云々と云ふたのは即此點である夫れで自分は不愉快に堪へ

られないから遂に意を決して退會した次第であつて決して先生の云はれた如く前金切後發送中止のため直に退會したのではないのである此様な事を云ふのは甚だ大人氣ない話であるから實は今日迄黙過して居つたのであるが先生の御都合のよい様にばかり書かれて猶且つ忍ばねばならぬ事はあるまいと事情を知れる友人が頻に勧めるので遂に是迄の關係を述べた次第である。

(終)

以上は是非掲載せよとの御請求だから載せたやうなものゝ、何も名前を擧げたのではなし某氏の名譽を損じたといふ譯でもない、些々たる事で誥らぬ場塞げてある。某氏は、會友としてか特別讀者となるか未定であつた、會友と特別讀者とは帳簿を異にしてゐるから、何れにか極めて貰ひたく指圖を請ふたのであつたらう。眞に我々の事業に同情のある方なら、何とか極めて返事をくれたらそれでよいので何も退會するには及ぶまいと思ふ、私共のやり方が下手であつたために、多年の會友を失ふたのは誠に遺憾に思ひます。序だから申上る雑誌の發送の時は、一々中の繪の落丁など無い様に調べさせるが、何分多數の事であるから、見落しもあらう。或讀者は、四枚も落丁のあるのに氣のつかぬとは不都合たといふやうな御叱りもあつたが、かゝる場合はいつでも御取換するから、あまり嚴しい御小言は御免を蒙る。營業にしてゐるのではないから、あまり六つかしい事を言はれたり讀んでやるのだといふやうな態度を見せられると

全く厭になつてしまふ。またある讀者は、雑誌が來ないといふて、友人の處へ來てゐるのに僕の方へよこさぬ、そんな不親切なやり方なら前金を返してくれと怒られた。これも確に發送したのであるが、一ヶ月に五六冊は途中紛失があるから、敢てこちらの不注意とのみ思はれては困る。

次に前金切の後に發送を止めるは、多年の讀者に酷のやうでもあり、また讀者を失ふ基で損だといふ話だが、何も雑誌の二冊や三冊を惜むのではない、是迄も可なり澤山無代進上になつたものもある、併し、押賣のやうに思はるゝのも厭だし、それに雑誌を出した後に送金があると、一人で事務をやつてゐるのではないから、往々二重に發送して、双方に手数をかける事になる、夫故、斷然帳簿に記入なき分は送らぬ様に極めてあるのです。厭になつたらいつ廢刊するかしれない雑誌ではあるが、まだ二三年は大丈夫ゆへ、何卒前金切にならぬうち跡の分を送つて頂きたい。

特別讀者の制は、本誌發展のためであつて、これに應ぜらるゝ方は、一ヶ年内に一枚の繪がほしいといふ以外に、本誌に同情があつての事であらう、夫故其繪畫については、あまり面倒な御注文や撰擇は見合せて、可相成會の方へ任して戴きたい、これは今後の應募者に御願して置きます。(編者)

\*

\*

\*

\*

\*

\*